

検査情報月報



2013
2013
1 月

横浜市衛生研究所

平成25年1月号 目次

【トピックス】

横浜市内の蚊成虫生息状況調査結果 ー平成24年6～10月ー	1
残留農薬検査(その3)	3

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査委員会報告 平成24年12月	6
-------------------------------	---

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報(平成24年12月分)	11
--------------------------------	----

横浜市内の蚊成虫生息状況調査結果

—平成24年6～10月—

医動物担当では、健康福祉局蚊媒介感染症サーベイランス事業の一環として主に市内公園および港湾地区において感染症媒介蚊生息状況調査を行っています。その地域特有の蚊の生息状況を把握しておくことは、ウエストナイル熱やデング熱等の蚊媒介感染症が発生した場合に、防除対策計画を立てるうえで重要な資料となります。平成24年度は、6月から10月にかけて横浜市内19ヶ所(各10回)で、各区福祉保健センター生活衛生課と連携し、蚊成虫捕獲調査を行いました(図1)。調査には、CDC型バッテリー式ライトトラップという昆虫類を捕獲する機器を用いました。蚊を誘引するためにドライアイス1kgをトラップ屋根付近に設置し、トラップを原則として一昼夜運転しました。捕獲された蚊は調査地点ごとに種類を同定し、雌成虫については、ウイルス検査担当に供出しました。蚊媒介感染症ウイルス検査結果については後日、横浜市衛生研究所HPに掲載する予定です。今回は、市内における蚊成虫生息状況調査結果について報告します。

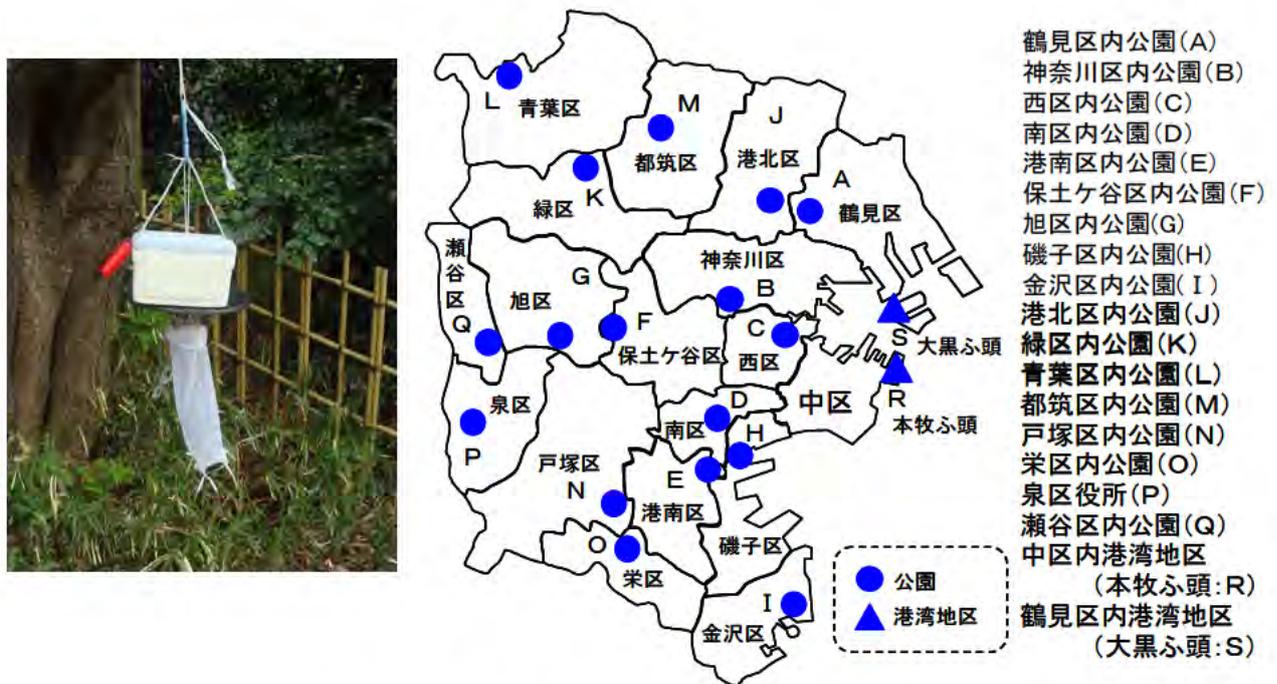


図1 調査地点と蚊の捕獲に用いたライトトラップ

〈捕獲された蚊の種類と個体数〉

平成24年6月から10月に行った調査で捕獲された蚊の種類と個体数を表1に示しました。捕獲された蚊成虫は、6属11種8,543個体でした。

最も多く捕獲された種類は、ヒトスジシマカ6,934個体(81.2%)でした。次いで、アカイエカ群*が1,125個体(13.2%)でした。また、ヤマトヤブカが238個体(2.8%)、キンパラナガハシカが174個体(2.0%)捕獲されました。

*:アカイエカ群には、アカイエカ、チカイエカ、ネッタイエカの3亜種が含まれます。3亜種は外部形態だけでは、実体顕微鏡下での同定が難しいため、多くの調査ではアカイエカ群として扱われています。

表1 捕獲された蚊の種類と個体数

属	種	個体数			
		雌	雄	合計	(%)
イエカ属	アカイエカ群	1,114	11	1,125	(13.2)
	コガタアカイエカ	10	0	10	(0.1)
	カラツイエカ	11	0	11	(0.1)
	ヤマトクシヒゲカ	2	1	3	(0.04)
	トラフカクイカ	3	0	3	(0.04)
ヤブカ属	ヒトスジシマカ	6,218	716	6,934	(81.2)
	ヤマトヤブカ	234	4	238	(2.8)
クロヤブカ属	オオクロヤブカ	34	0	34	(0.4)
ナガハシカ属	キンパラナガハシカ	144	30	174	(2.0)
ナガスネカ属	ハマダラナガスネカ	6	0	6	(0.07)
チビカ属	フタクロホシチビカ	4	1	5	(0.06)
合計		7,780	763	8,543	



アカイエカ群



ヒトスジシマカ

〈調査地点別の蚊捕獲数〉

調査地点別の蚊捕獲数を図2に示しました。調査期間中最も多く捕獲されたのは、鶴見区内公園(A)で1,436個体、次いで西区内公園(C)で955個体捕獲され、ヒトスジシマカ優占でした。一方最も少なかったのは、泉区役所(P)で32個体でした。また、公園はヒトスジシマカが優占でしたが、港湾地区の中区本牧ふ頭(R)と鶴見区大黒ふ頭(S)はアカイエカ群優占でした。

アカイエカ群とヒトスジシマカの生態は、検査情報月報2011年1月号「[横浜市内の蚊成虫生息状況調査結果\(平成22年6～11月\)](#)」に掲載されています。参考にしてください。

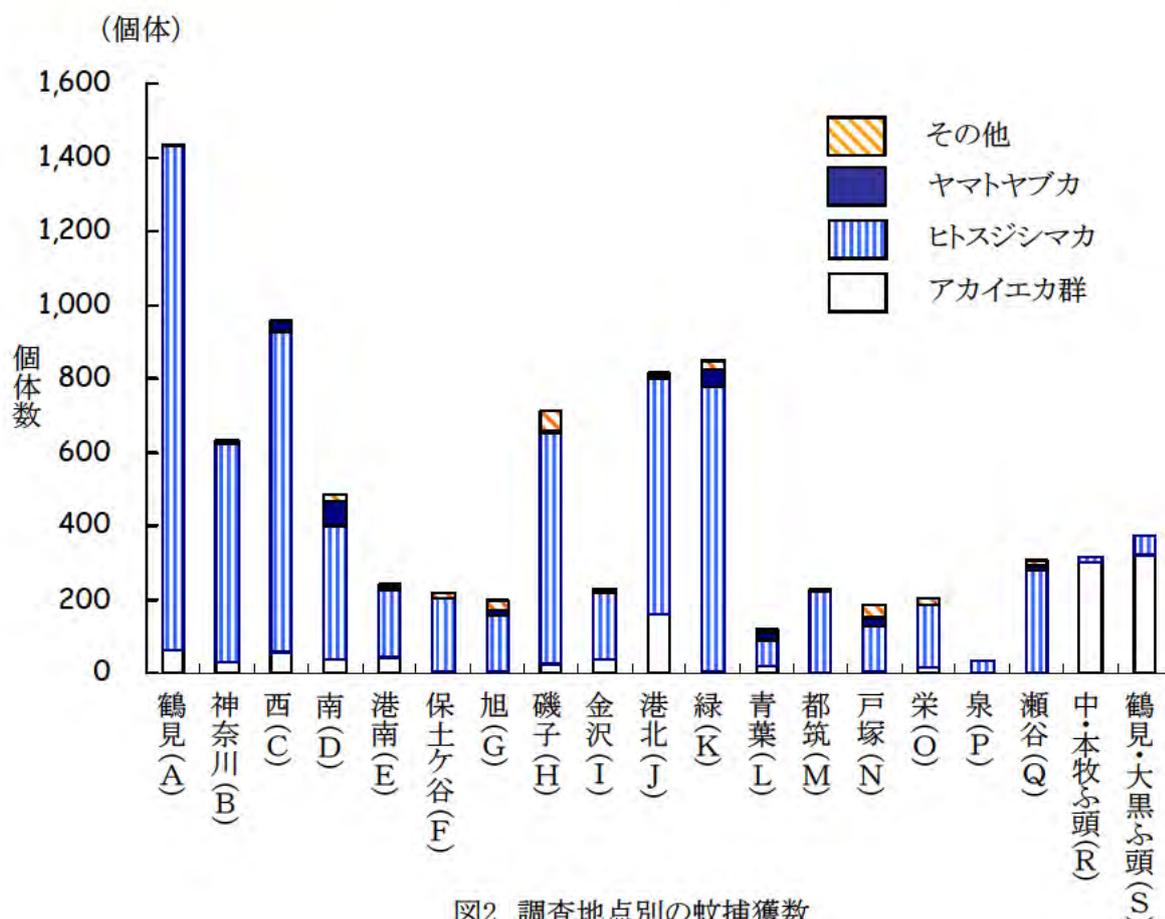


図2 調査地点別の蚊捕獲数

残留農薬検査(その3)

当所では、横浜市内に流通する農作物等の食品に残留する農薬の検査を行っています。平成22年度より農作物当たりの検査項目数を追加し、検査体制を一層強化しています。

今回は、平成24年9月から11月までに食品専門監視班より搬入された農作物の検査結果を報告します。

1 市内産農作物

10月に搬入されたきゅうり(2検体)及びさつまいも(5検体)、11月に搬入されたブロッコリー(7検体)の計14検体について検査を行いました。これらの結果を表1に示しました。その結果、農薬が検出されたものではありませんでした。

検査項目及び検出限界については表2に示しました。

2 国内産農作物

9月に搬入されたキャベツ、セロリ、大根の根、にんじん、はくさい、みず菜及びレタス(各1検体)の計7検体について検査を行いました。これらの結果を表1に示しました。その結果、セロリ1検体、にんじん1検体及びみず菜1検体から計7項目の農薬が検出されました。しかし、残留農薬の基準値を超えるものではありませんでした。

検査項目及び検出限界については表2に示しました。

3 輸入農作物

9月に搬入されたアボカド、オレンジ(各1検体)及びグレープフルーツ(3検体)、10月に搬入されたオレンジ及びグレープフルーツ(各2検体)、11月に搬入されたオレンジ(3検体)、キウイ及びグレープフルーツ(各1検体)の計14検体について検査を行いました。これらの結果を表1に示しました。その結果、アボカド1検体、オレンジ3検体及びグレープフルーツ6検体から計7項目の農薬が検出されました。しかし、残留農薬の基準値を超えるものではありませんでした。

検出された農薬のうち特に、クロルピリホスはオレンジ2検体及びグレープフルーツ1検体から、ピラクロストロピンはオレンジ1検体及びグレープフルーツ3検体から、ピリプロキシフェンはオレンジ1検体及びグレープフルーツ4検体から検出されており、これらの農薬は柑橘類によく使用されていると考えられました。(農薬の概要については下記を参考にしてください。)

検査項目及び検出限界については表2に示しました。

【農薬解説】

クロルピリホス

『ダズバン』などの商品名で販売されている殺虫剤です。果樹害虫防除用の薬剤で、特にハマキムシ類に効果があり、速効性と残効性があります。

平成24年度に実施した検査において、アメリカ産のオレンジ及びレモンからも検出されました。

ピラクロストロピン

『カルビオ』などの商品名で販売されている殺菌剤です。果樹、野菜、ウリ類などの斑点性落葉病、黒斑病、べと病、うどんこ病などに効果があります。

平成24年度に実施した検査において、南アフリカ共和国産のグレープフルーツ及び韓国産のパプリカからも検出されました。

ピリプロキシフェン

『ラノー』などの商品名で販売されている殺虫剤です。蛹化・成虫化を阻害することにより、コナジラミ類、アザミウマ類等に対して殺虫効果があります。

表1 残留農薬検査結果

(H24年9月～H24年11月)

農作物	産地	検査 検体数	農薬検出 検体数	検出農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
市内産農作物						
きゅうり	横浜市	2	0			
さつまいも	横浜市	5	0			
ブロッコリー	横浜市	7	0			
国内産農作物						
キャベツ	群馬県	1	0			
セロリ	長野県	1	1	{ クロルフェナピル クレソキシムメチル アゾキシストロビン イミダクロプリド チアメトキサム	0.77	3
					0.43	30
					0.19	30.0
					0.02	4
					0.01	0.7
大根の根	北海道	1	0			
にんじん	北海道	1	1	プロシミドン	0.11	0.5
はくさい	長野県	1	0			
みず菜	茨城県	1	1	フルフェノクスロン	0.20	10
レタス	長野県	1	0			
輸入農作物						
アボカド	メキシコ	1	1	シハロトリン	0.05	0.5
オレンジ	オーストラリア	5	1	{ クロルピリホス メチダチオン	0.09	1
					0.26	5
	南アフリカ共和国	1	1	{ クロルピリホス ピラクロストロビン ピリプロキシフェン ピリメタニル	0.06	1
					0.02	1
0.06	0.5					
0.08	15					
キウイ	ニュージーランド*	1	0			
グレープフルーツ	アメリカ	1	1	ピリプロキシフェン	0.04	0.5
	南アフリカ共和国	5	1	{ ピリプロキシフェン アゾキシストロビン	0.03	0.5
					0.04	2
					0.03	1
	1	1	{ クロルピリホス ピリプロキシフェン	0.03	1	
				0.05	0.5	
	1	1	ピラクロストロビン	0.02	1	
1	1	{ ピラクロストロビン ピリプロキシフェン	0.01	1		
0.05	0.5					

表2 農薬の検査項目及び検出限界(114項目)

農薬名	検出限界 (ppm)	農薬名	検出限界 (ppm)	農薬名	検出限界 (ppm)
BHC(α、β、γ及びδの和)	0.005	シハロトリン	0.01	フェニトロチオン	0.01
DDT(DDE、DDD及びDDTの和*)	0.005	シフルトリン	0.01	フェンクロルホス	0.01
EPN	0.01	シペルメトリン	0.01	フェンスルホチオン	0.01
アクリナトリン	0.01	ジメチルビンホス	0.01	フェンチオン	0.01
アセタミプリド	0.01	ジメトエート	0.01	フェントエート	0.01
アゾキシストロビン	0.01	シメトリン	0.01	フェンバレレート	0.01
アルドリン及びディルドリン	0.005	スルプロホス	0.01	フェンピロキシメート	0.01
イソフェンホス	0.01	ダイアジノン	0.01	フェンプロパトリン	0.01
イソプロカルブ	0.01	チアクロプリド	0.01	ブタクロール	0.01
イプロベンホス	0.01	チアメキサム	0.01	ブタミホス	0.01
イミダクロプリド	0.01	チオベンカルブ	0.01	ブプロフェジン	0.01
インドキサカルブ	0.01	チフルザミド	0.01	フルジオキソニル	0.01
エスプロカルブ	0.01	テトラクロルビンホス	0.01	フルシトリネート	0.01
エチオン	0.01	テトラコナゾール	0.01	フルトラニル	0.01
エトプロホス	0.005	テトラジホン	0.01	フルバリネート	0.01
エトリムホス	0.01	テブコナゾール	0.01	フルフェノクスロン	0.01
エンドスルファン(α及びβの和)	0.005	テブフェノジド	0.01	プロシミドン	0.01
エンドリン	0.005	テブフェンピラド	0.01	プロチオホス	0.01
オキサミル	0.01	テフルトリン	0.01	プロパホス	0.01
カズサホス	0.01	テフルベンズロン	0.01	プロピザミド	0.01
カフェンストロール	0.01	デルタメリン及びトラロメリン	0.01	プロメカルブ	0.01
カルバリル	0.01	テルブホス	0.005	プロモプロピレート	0.01
クレソキシムメチル	0.01	トリアジメノール	0.01	ヘキサコナゾール	0.01
クロチアニジン	0.01	トリアジメホン	0.01	ヘキサフルムロン	0.01
クロマフェノジド	0.01	トルクロホスメチル	0.01	ヘプタコル(エポキシドを含む)	0.005
クロルピリホス	0.01	パラチオン	0.01	ペルメトリン	0.01
クロルピリホスメチル	0.01	パラチオンメチル	0.01	ペンコナゾール	0.01
クロルフェナピル	0.01	ハルフェンプロックス	0.01	ホサロン	0.01
クロルフェンゾン	0.01	ビフェントリン	0.01	ボスカリド	0.01
クロルフェンビンホス	0.01	ピペロホス	0.01	マラチオン	0.01
クロルプロファム	0.01	ピラクロストロビン	0.01	ミクロブタニル	0.01
クロロクスロン	0.01	ピリダフェンチオン	0.01	メチダチオン	0.01
シアノフェンホス	0.01	ピリブチカルブ	0.01	メキシフェノジド	0.01
シアノホス	0.01	ピリプロキシフェン	0.01	メトラクロール	0.01
ジオキサベンゾホス	0.01	ピリミノバックメチル	0.01	メビンホス	0.01
ジクロフェンチオン	0.01	ピリミホスメチル	0.01	リニューロン	0.01
ジクロラン	0.01	ピリメタニル	0.01	リンデン(γ-BHC)	0.002
ジコホール	0.01	フェナリモル	0.01	ルフェヌロン	0.01

※ DDTはp,p'-DDE、p,p'-DDD、o,p'-DDT及びp,p'-DDTの和

※参考文献

- ・社団法人日本植物防疫協会，農薬ハンドブック2011年版
- ・農薬残留分析法研究班，最新農薬の残留分析法(改訂版)
- ・農林水産消費安全技術センター及び各農薬製造会社H.P.

【 検査研究課 微量汚染物担当 】

感染症発生動向調査委員会報告 12月

《今月のトピックス》

- 感染性胃腸炎が流行しています。
- インフルエンザが流行期に入りました。
- 風しんの流行が継続しています。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎が瀬谷区で警報レベルです。
- RSウイルス感染症が再び増加傾向です。
- 咽頭結膜熱が例年にくらべ報告数が多くなっています。
- マイコプラズマ肺炎の報告数が多い状況が続いています。

全数把握疾患

＜細菌性赤痢＞

1件のShigella sonneiの報告がありました。エジプトでの経口感染が推定されています。

＜レジオネラ症＞

2件の肺炎型の報告がありました。どちらも感染の原因は現在調査中です。

＜アメーバ赤痢＞

腸管アメーバ症4件の報告がありました。いずれも国内での感染が推定されており、うち1件は性的接触による感染、もう1件は経口感染が推定されています。残るもう2件は感染経路等不明でした。

＜後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)＞

3件(AIDS2件、無症状病原体保有者1件)の報告がありました。AIDSのうち、1件はニューモシスティス肺炎による発症で、国内での同性間性的接触による感染が推定されています。もう1件はHIV脳症による発症で、国内での異性間性的接触による感染が推定されています。無症状病原体保有者の1件は国内での異性間性的接触による感染が推定されています。

＜風しん＞

11件(男性7件、女性4件)の報告がありました。全国的な流行は第30週をピークに減少傾向となっていた第44週から下げ止まり、東京都を中心とした関東地方や、大阪府などの関西地方などでは現在も流行が継続しています。横浜市でも12月に入っても依然報告が続いており、引き続き注意が必要です。先天性風しん症候群予防のため、風しん予防接種の記録がない、あるいは、風しんHI抗体が陰性または低抗体価の女性は予防接種を受けることが強く勧められています*。さらに、今回の流行の中心は、予防接種歴が無い、あるいは不明の20～40歳代男性であるため、流行の抑制には男性の予防接種も重要です。

※風疹流行および先天性風疹症候群の発生抑制に関する緊急提言

<http://idsc.nih.go.jp/disease/rubella/rec200408rev3.pdf>

◆横浜市感染症臨時情報：<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/>

市内風しん届出数(2012.12.25現在)



定点把握疾患

平成24年11月26日から平成24年12月23日まで(平成24年第48週から平成24年第51週まで。ただし、性感染症については平成24年11月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成24年 週一月日対照表

第48週	11月26日～12月 2日
第49週	12月 3日～12月 9日
第50週	12月10日～12月16日
第51週	12月17日～12月23日

1 患者定点からの情報

市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:4か所の計202か所です。

なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

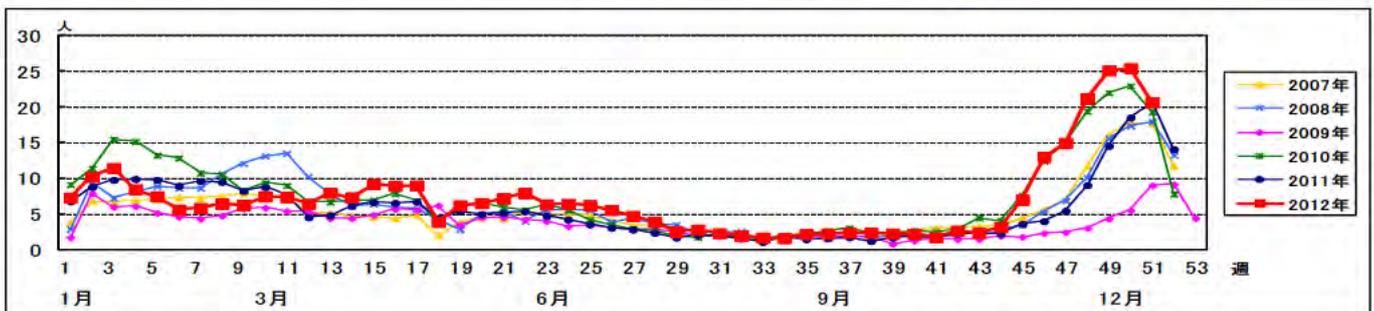
<感染性胃腸炎>

第48週に定点あたり21.21となり、警報が発令された後も増え続け、第50週には25.47となりましたが、第51週は20.70とやや減少しました。しかし、依然として流行しているため引き続き注意が必要です。予防には手洗い、便や吐物の適切な処理と消毒、食品の十分な加熱が重要です。ノロウイルスの消毒には次亜塩素酸による消毒が有効です。

◆横浜市衛生研究所:次亜塩素酸の詳しい使用方法

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/noro-yobou.pdf>

◆横浜市衛生研究所:横浜市感染症臨時情報:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/>

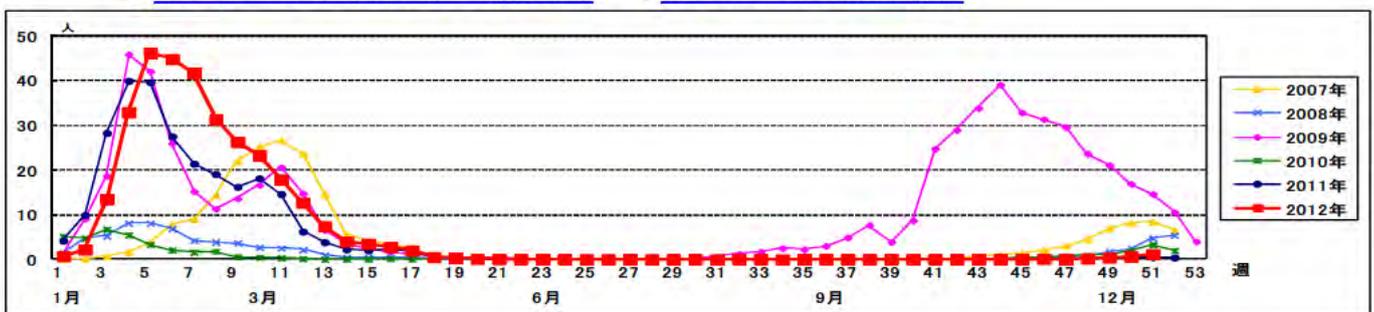


<インフルエンザ>

第51週に市全体で定点あたり1.21となり、流行開始の目安となる1.00人を超えました。全国では既に第50週に1.17となり、流行期に入っています。全国のウイルス検出状況では、AH3亜型(A香港型)が主流となっています。今後、インフルエンザの本格的な流行が予想されるため、予防や早期受診などの対策が重要です。

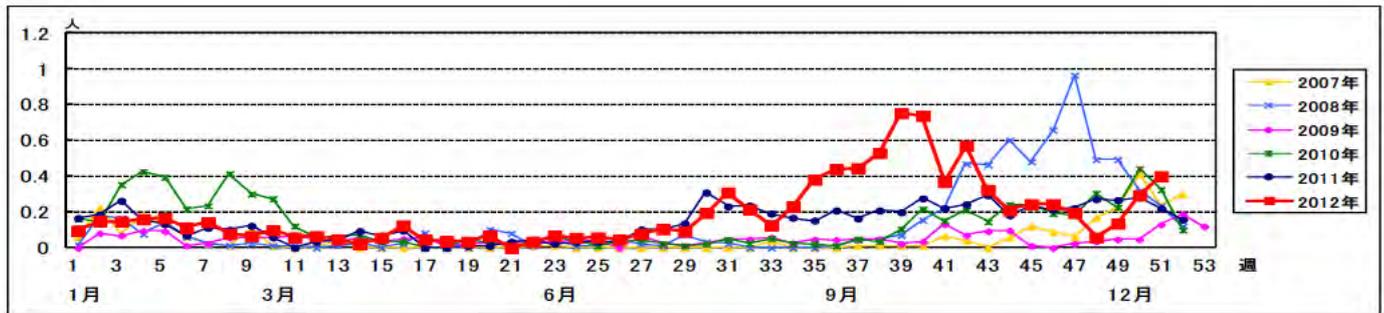
◆[インフルエンザ予防チラシ\(横浜市\)](#)

◆[インフルエンザ臨時情報](#)



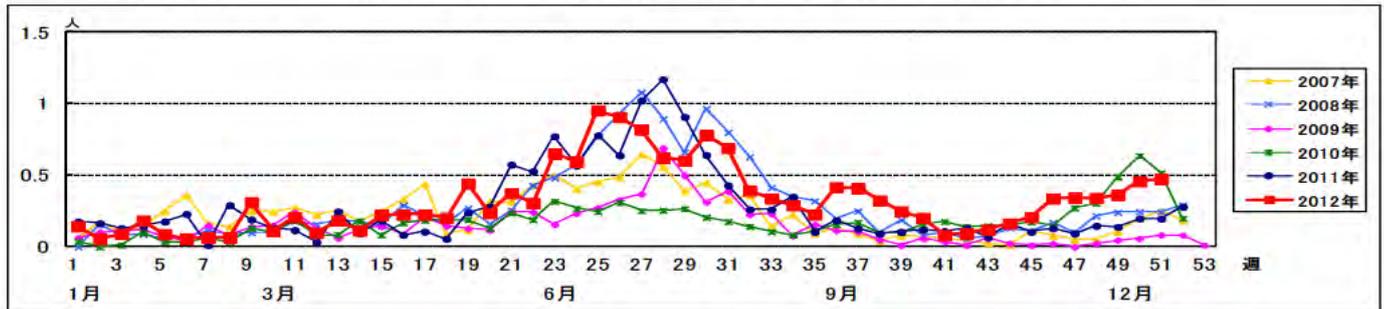
<RSウイルス感染症>

第48週は市全体で定点あたり0.06と減少していましたが、第51週では0.40と、上昇に転じており注意が必要です。



<咽頭結膜熱>

第51週0.48と例年より報告が多くなっています。区別では港北区1.86となっています。

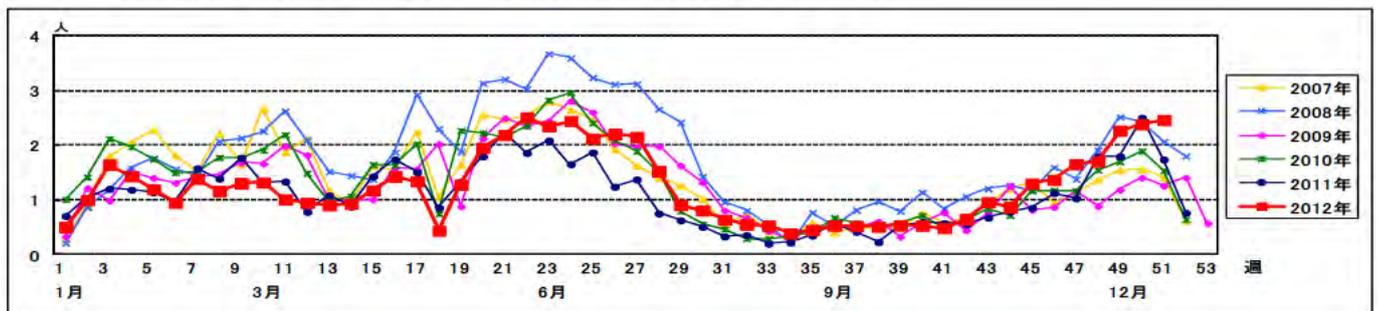


<水痘>

第51週は市全体で定点あたり2.04と、大きな流行は見られませんが、神奈川区4.20で注意報レベル(定点あたり4.00以上)を上回っており、注意が必要です。

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

第51週は市全体で定点あたり2.46と警報レベル(定点あたり8.00以上)を下回っているものの、増加傾向です。瀬谷区では9.25と警報レベルとなっており、注意が必要です。



<性感染症>

11月は、性器クラミジア感染症は男性が22件、女性が12件でした。性器ヘルペス感染症は男性が6件、女性が9件です。尖圭コンジローマは男性2件、女性が6件でした。淋菌感染症は男性が10件、女性が1件でした。

<基幹定点週報>

全国ではマイコプラズマ肺炎が定点あたり1.00を超える状況が続いています。横浜市でも第48週1.33、第49週2.67、第50週3.00、第51週2.50と、報告が多い状態が続いています。細菌性髄膜炎が第50週に1件(60歳代、病原体は肺炎球菌)、無菌性髄膜炎が第50週に3件(40歳代2件、10歳代1件。いずれも病原体は検出せず)ありました。クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

<基幹定点月報>

11月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症6件が報告されました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

<ウイルス検査>

12月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点53件(鼻咽頭ぬぐい液43件、ふん便9件、吐瀉物1件)、内科定点14件(鼻咽頭ぬぐい液9件、ふん便5件)、基幹定点7件(鼻咽頭ぬぐい液4件、ふん便2件、髄液1件)、眼科定点3件(眼脂)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は上気道炎24人、胃腸炎9人、気管支炎8人、アデノウイルス感染症4人、発疹症3人、手足口病3人、嘔吐症1人、発熱のみ1人、内科定点はインフルエンザ(疑い含む)7人、胃腸炎5人、上気道炎2人、基幹定点はインフルエンザ(疑い含む)2人、川崎病疑い2人、急性心筋炎1人、熱性けいれん重積1人、不明熱1人、眼科定点は流行性角結膜炎3人でした。

1月11日現在、小児科定点の上気道炎患者2人と胃腸炎患者1人からインフルエンザウイルス(以下Inf)AH3型、気管支炎患者1人からヘルペスウイルス1型、手足口病患者1人からエンテロウイルス71型、アデノウイルス感染症患者1人からアデノウイルス(型未同定)、内科定点のインフルエンザ患者1人からInfAH3型、1人からInfB型(山形系統)、基幹定点のインフルエンザ患者1人からInfAH3型が分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点の上気道炎患者6人からアデノウイルス(型未同定、このうち1人はライノウイルスとの重複、1人はRSウイルスとの重複)、3人からライノウイルス、2人からパラインフルエンザウイルス2型(このうち1人はライノウイルスとの重複)、1人からRSウイルス、1人からヒトコロナウイルス、胃腸炎患者4人からノロウイルスGⅡ型、1人からAdeno5型、手足口病患者2人からCA6型、アデノウイルス感染症3人からアデノウイルス(型未同定、このうち1人はヒトコロナウイルスとの重複)、気管支炎患者2人からRSウイルス、1人からコクサッキーウイルスA(以下CA)6型(ライノウイルスとの重複)、1人からライノウイルス、発疹症患者1人からRSウイルス、発熱のみの患者1人からパラインフルエンザウイルス1型、内科定点のインフルエンザ患者1人からアデノウイルス(型未同定)、胃腸炎患者1人からノロウイルスGⅡ型が検出されています。なお、小児科定点のinfAH3型が分離された2人のうち1人はノロウイルスGⅡ型、1人はアデノウイルスの重複検出例でした。

その他の検体は引き続き検査中です。

【 検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

12月の感染性胃腸炎関係の受付は、基幹定点から9件、定点以外の医療機関等からは2件あり、赤痢菌、腸管出血性大腸菌(O157:H7,VT2、O26:H+,VT1)が検出されました。

溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体受付は小児科定点から11件で、A群溶血性レンサ球菌、肺炎球菌が検出されました。

(次ページに表)

表 感染症発生動向調査における病原体検査(12月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	12月			2012年1月～12月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	0	9	2	2	156	101
菌種名						
赤痢菌		1			4	3
腸管病原性大腸菌					2	
腸管出血性大腸菌		1	2		5	50
腸管毒素原性大腸菌					3	
チフス菌					1	1
パラチフスA菌					2	
サルモネラ					20	5
カンピロバクター				1		11
コレラ菌						2
NAGビブリオ						1
不検出	0	7	0	1	119	28

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	12月			2012年1月～12月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	11	0	46	94	22	142
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌	T1	1		11		
	T2			2		
	T6	1		11		
	T4	2		6		
	T12	1		12		
	T25			1		
	T28			4		
	T B3264	2		10		
B群溶血性レンサ球菌					2	22
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌					7	26
バンコマイシン耐性腸球菌					1	3
<i>Legionella pneumophila</i>						2
インフルエンザ菌				7		2
肺炎球菌		1		5	2	
黄色ブドウ球菌				1		
破傷風菌					1	
結核菌						5
<i>Mycobacterium avium</i>						1
緑膿菌			46			47
不検出		3	0	0	24	9
						34

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報

(アクセス件数・順位 平成24年11月分、電子メールによる問い合わせ・追加・更新記事 平成24年12月分)

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成24年11月のアクセス件数、アクセス順位及び平成24年12月の電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については総務局IT活用推進課から提供されたデータを基に集計しました。

1 利用状況

(1) アクセス件数 (平成24年11月)

平成24年11月の総アクセス数は、166,210件でした。主な内訳は、感染症70.2%、食品衛生11.7%、保健情報5.1%、検査情報月報4.0%、生活環境衛生1.8%、薬事1.0%でした。

(2) アクセス順位 (平成24年11月)

表1 平成24年11月 アクセス順位

11月のアクセス順位(表1)は、第1位が「マイコプラズマ肺炎について」、第2位が「インフルエンザワクチンについて」、第3位が「クロストリジウム-ディフィシル感染症について」でした。

11月の総アクセス数は、前月比で約6%の増加となっています。感染症に関するアクセス数が多くを占めています。その中でも今月は、インフルエンザなどのワクチンや定期予防接種に対する関心の高さが伺えます。今年、ノロウイルスによる感染性胃腸炎が流行していることから、アクセス順位の10位に入ってきました。引き続き、手洗いやうがいによる予防対策が大切です。

また、マイコプラズマ肺炎のアクセス件数は、年間を通じて多くなっています。国立感染症情報センターの報告によると、マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は、平成24年第45週(11月5日～11日)1.26、第46週(11月12日～18日)1.32、第47週(11月19日～25日)1.06、第48週(11月26日～12月2日)1.20となっており、依然高い傾向を示しているため、注意が必要です。

順位	タイトル	件数
1	マイコプラズマ肺炎について	12,646
2	インフルエンザワクチンについて	5,717
3	クロストリジウム-ディフィシル感染症について	4,250
4	衛生研究所トップページ	4,052
5	アメリカ合衆国のこどもの定期予防接種について	3,066
6	チメロサルとワクチンについて	2,989
7	2012(平成24)年度のインフルエンザワクチンについて	2,935
8	感染症発生状況	2,675
9	横浜市感染症情報センター	2,199
10	ノロウイルスによる感染性胃腸炎について	2,130

データ提供:総務局IT活用推進課

厚生労働省のマイコプラズマ肺炎に関するQ&A(一般の人向け) 平成23年12月

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou30/index.html>

「ノロウイルスによる感染性胃腸炎」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/srsv1.html>

「クロストリジウム・ディフィシル感染症」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/clostridium1.html>

「インフルエンザワクチン」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/influvaccine.html>

(3) 電子メールによる問い合わせ（平成24年12月）

平成24年12月の問い合わせは、3件でした(表2)。

表2 平成24年12月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
ステアロイル乳酸ナトリウムの組成分析について	1	検査研究課食品添加物担当
食中毒に関する件について	1	西区生活衛生課食品衛生係
牛レバー刺し身提供情報について	1	磯子区生活衛生課食品衛生係

2 追加・更新記事（平成24年12月）

平成24年12月に追加・更新した主な記事は、9件でした(表3)。

表3 平成24年12月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
12月 4日	感染症に気をつけよう(12月号)	掲載
12月 6日	感染性胃腸炎の発生状況	掲載
12月 6日	病原体定点からのウイルス検出状況	更新
12月20日	感染性胃腸炎の発生状況	掲載
12月21日	風しんの発生状況	掲載
12月25日	横浜市における自殺の現状(平成19年～23年)－神奈川県警提供のデータの解析－	掲載
12月27日	横浜市インフルエンザ流行情報1号	掲載
12月28日	病原体定点からのウイルス検出状況	更新
12月28日	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	更新

【 感染症・疫学情報課 】